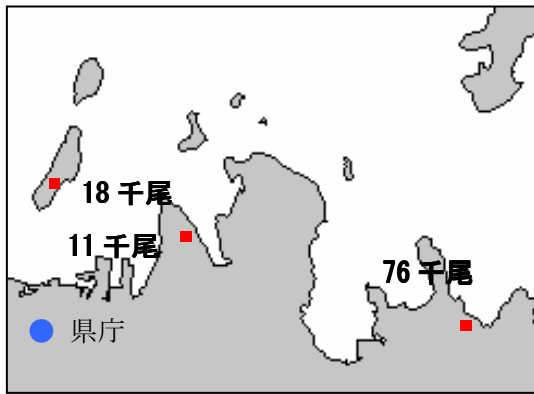


2008 年春季のサワラの漁況予報

大型種苗の放流状況

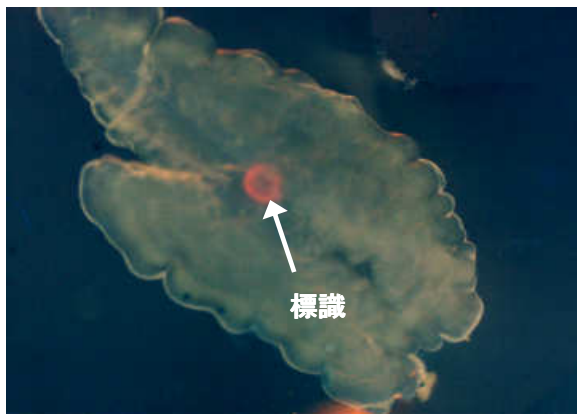


放流位置図

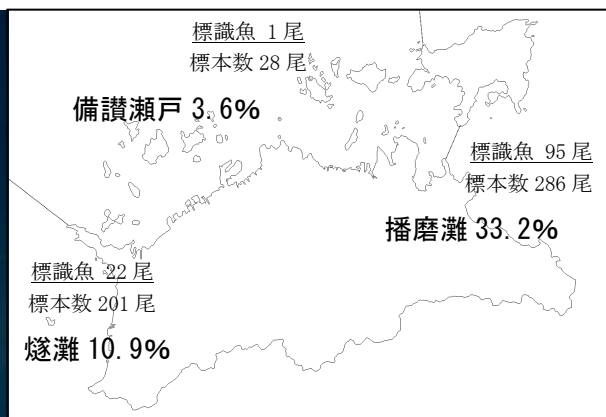
大型種苗はこれまでで最も多く放流しました。県内では中間育成した約 100mm の大型種苗を小田中間育成場から 76 千尾、女木島漁協から 18 千尾、水産総合研究センター屋島栽培漁業センターから 11 千尾放流されました。

瀬戸内海全体では、本県を含め大阪府・兵庫県・岡山県から瀬戸内海東部海域に 217 千尾を、広島県・愛媛県・大分県から瀬戸内海西部に 53 千尾の大型種苗が放流されました。

放流魚の混入率



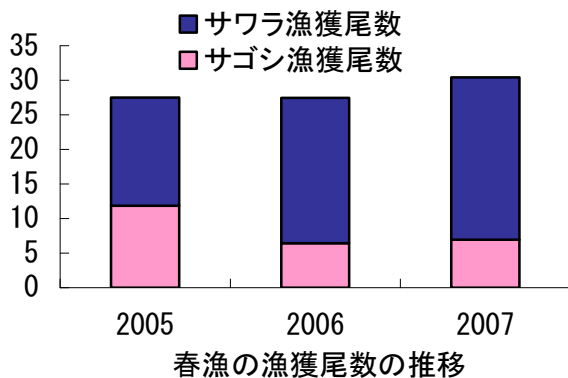
耳石の標識写真



灘別の混入率

放流した種苗には標識を付けており、平成 19 年に水産試験場で 515 尾の標本を調べた結果、118 尾の魚に標識が確認され、放流したサワラの混入率は 22.9% でした。

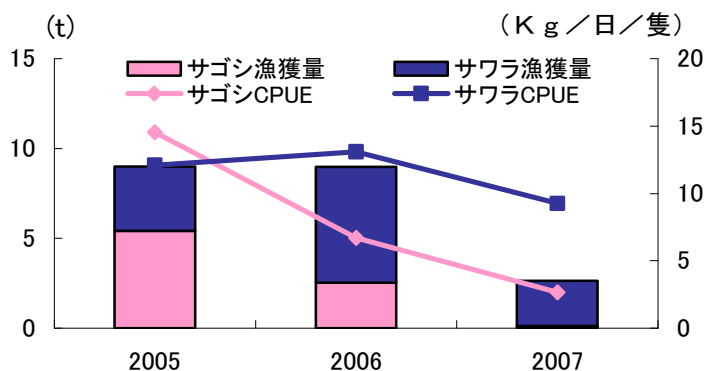
春漁の漁獲状況



春漁の漁獲尾数の推移

漁獲状況報告の集計によれば、サワラは約 24 千尾で約 86 t、対前年比 112% でした。サゴシは約 7 千尾で 10 t、対前年比 108% でした。

秋漁の漁獲状況（燧灘）



秋漁の漁獲量の推移と CPUE（単位努力当り漁獲量）

TAC 集計によれば、伊吹漁協の漁獲量は、サワラ 2.5t で対前年比 39%、サゴシでは 0.1t で対前年比 5%と大幅に減少しました。

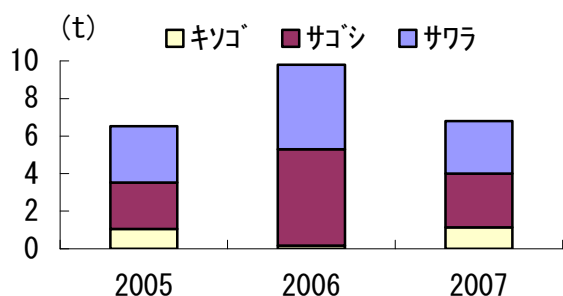
CPUE（単位努力当り漁獲量）もサワラ、サゴシ共に低い値となりました。

さわら流しさし網試験操業調査

年	2005 (H17)		2006 (H18)		2007 (H19)	
	試験日	尾漁数	試験日	尾漁数	試験日	尾漁数
操業日	10/3	18尾	10/10	85尾	10/5	47尾
	10/12	32尾	10/16	32尾	10/15	14尾
	10/27	84尾	10/25	8尾	10/22	11尾
計	134尾		125尾		72尾	
放流魚	8尾		43尾		23尾	
混入率	6%		34%		32%	
CPUE	22.3尾/隻		20.8尾/隻		12.0尾/隻	
	1.5尾/反		1.4尾/反		0.8尾/反	
東部放流尾数	113,419尾		104,781尾		217,416尾	

10月に播磨灘南西部海域において、目合 2.7 寸のさわら流しさし網による試験操業（3回延べ 6 隻）を実施しサゴシを 72 尾漁獲しました。このうち 23 尾に標識があり、32%と高い混入率でした。

まとめ

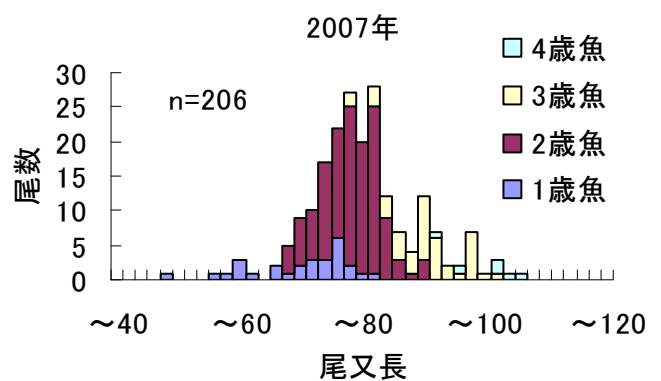
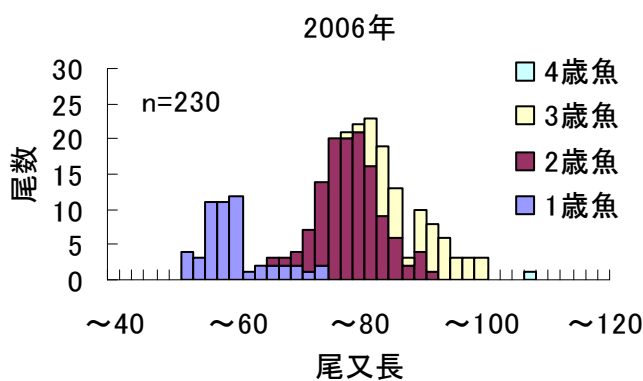
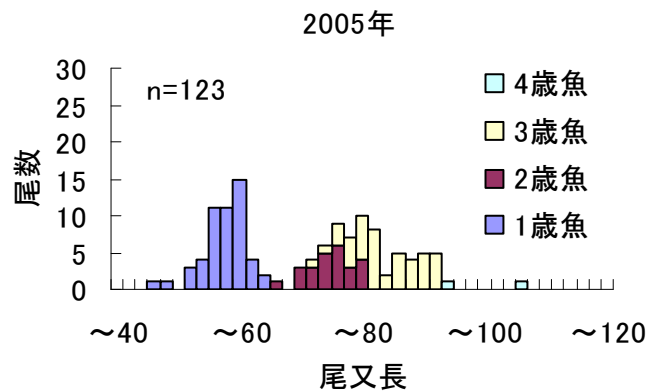
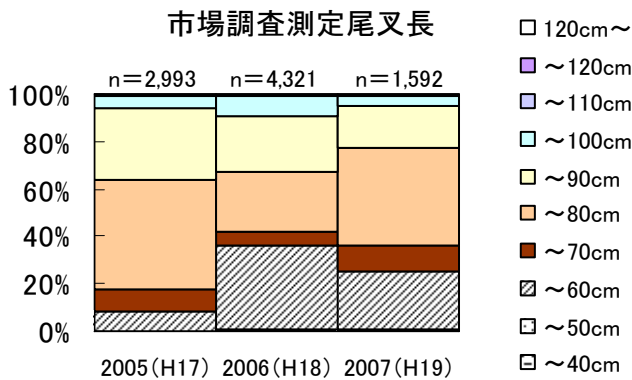


播磨灘定置網の漁獲量の推移

燧灘の秋漁のサワラは対前年 39%の漁獲量で CPUE は 9.2kg/日・隻で対前年 71%、サゴシでは対前年 5%の漁獲量で CPUE は 2.7kg/日・隻で対前年 40%でした。また、播磨灘海域の定置網のサゴシの漁獲量は 2.9t で対前年の 56%となり、2008 年に帰ってくるものが少ないことをうかがえます。

播磨灘では、6月から8月にシラス（カタクチイワシ）が豊漁で、キソゴ(800g以下でサゴシより小型の0才魚)が滞留したようです。

シより小型の0才魚)が滞留したようです。



年齢組成と尾叉長と漁獲量

サワラは、サンプル調査の年齢と尾叉長、市場調査の測定尾叉長から主な漁獲年齢は2歳魚でした。また、調査結果から2007年は2006年と比べて、1歳魚は2006年より少なく、2歳魚は多かったと思われます。

2008年春漁の漁況予報

○3歳魚（サワラ）

2007年をやや上回ると予想されます。

理由：2歳魚の資源量が2006年より2007年の方が多いと想定されるため。

○2歳魚（サワラ）

2007年を下回ると予想されます。

理由：1歳魚の資源量が2006年より2007年の方が少ないと想定されるため。

○1歳魚（サゴン）

2007年を下回ると予想されます。

理由：0歳魚の資源量が2006年より2007年の方が少ないと想定されるため。

漁獲の主体となる2歳魚が昨年を下回ると予想されるため、全体の漁獲量は2007年を下回ると予想されます。